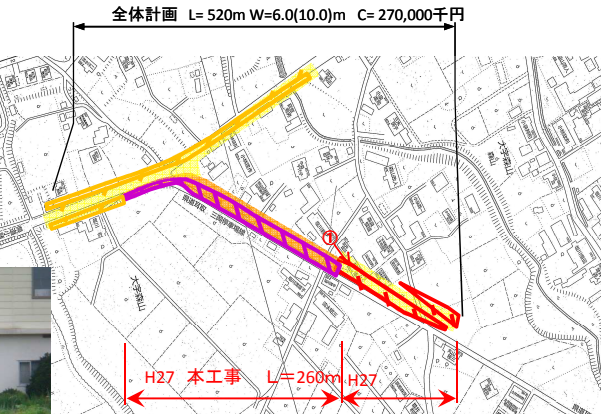


(様式2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)耳取三岡(停)線	
事業毎の通番	3	市町村名	小諸市	箇所名(ふりがな)	森山 (もりやま)
事業目的	当路線は小諸市耳取地区と、JR三岡駅を結ぶ道路であり、朝夕は佐久市方面から小諸市街地へ向かう車両の「抜け道」として利用されているため、交通量が非常に多い。しかし当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。近隣には、小学校があり通学路にも指定されて歩行者も多く、地域住民からの対策要望が高まっている。そこで、当事業は歩行者の安全確保のため歩道を設置するものである。				
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	第5編 施策の総合的展開 第4章 4-2 県民生活の安全確保 第5章 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり	事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	通学路緊急合同点検(H24.8.22実施)				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	野岸小学校 通学者他 現況自動車交通量: 8,066台/日、現況自転車・歩行者交通量 98台・人/12h				
着手年度	平成27年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	—	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=520m W=2.5m	270,000	162,000	97,200	10,800
年度事業内容(主な工種)	用地補償 1式	50,000	30,000	18,000	2,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される。			
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い都市・まちづくりが期待される 通行車両の交通事故抑制			
評価の視点	必要性	○現況自動車交通量:8,066台/日 ○現況自転車・歩行者交通量:98台・人/12h(片方向)			評価 A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:1つ整合(通学路緊急合同点検) ○緊急輸送道路の路線指定:小諸市緊急輸送道路に指定			評価 B
	効率性	○事業期間:5年間(H27~H31)			評価 C
	緊急性	○近年の交通事故件数:7件 ○通学路対策:H24緊急合同点検を踏まえた対策箇所(小諸市立野岸小学校) ○現況の歩道幅員:歩道なし			評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者以外にも周知(地元区 説明会実施 H25年度3回) ○地域の取り組み:積極的な取り組みがある(区長等が、沿線住民宅に個別訪問) ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○住民との協働:住民参加型の事業(維持管理に住民参加が見込まれる)			評価 A
	部意見	交通量が多く、狭窄な道路で通学路であり、安全な歩行空間を確保するため、早期の歩道整備が必要である。	行政改革課意見	集落とJR三岡駅を結ぶ道路で通行量が多い路線であるが、歩道が未整備であることから、必要性、緊急性が高い。	評価結果 ○

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)	 <p>森山</p>	
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	 <p>至 JR三岡駅</p>	
事業周辺環境	全体計画 L=520m W=6.0(10.0)m C=270,000千円		
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	以前より地元PTAより小諸市を通じて歩道設置要望があった。平成25年6月14日 小諸市長、山岸県議会議員、PTA会長、PTA支部長、地元区長等が佐久建設事務所長に陳情。その時、関係地権者からの歩道計画同意書を持参。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	区長等が関係地権者宅を個別訪問、及び 協力要請を行い、平成25年6月14日 陳情時に歩道計画同意書を持参。一刻も早く 野岸小学校への通学児童の安全を陳情。	
	③事業説明等の経緯	H25年度に、地権者及び地元区に対して説明会を3回実施	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	地元説明会時に両側歩道、片側歩道、どちらにするか議論して頂き、結果、生活環境への影響と配慮の面から、片側歩道に決定。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	歩道設置により歩行者の安全、通行車両の事故リスクの低減等が図れる。当該箇所周辺は平坦な地形のため、今後、住宅建設の可能性があり、地域活性化へ寄与すると思われる。	
⑦その他	とにかく人身事故が発生する前に歩道整備を行いたい。		事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 17' 44" 東経:E 138° 26' 23"